# ある晴と雨の日

いろうさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ある晴と雨の日

【Ｎコード】
Ｎ７６２３Ｑ

【作者名】
いろうさ

【あらすじ】
晴ちゃんと雨ちゃんのお話。
楽しい青春と恋愛をどうぞ
軽いＢＬ入ってます。

## はじめまして

はじめまして。になるかな
俺は皆川（みながわ）晴（せい）
あだ名は晴ちゃん（はれちゃん）
男子校の2年3組。
成績も普通、容姿も普通、全部ぜーんぶ普通。
背がちょっと人より高いぐらい
おもしろくない！
と思いつつ
おもしろいことが見つからない。
そんな日々だ。

「あー…なんかおもしろいことねーかなぁ」

そう、恥ずかしくもベランダで独り言をつぶやいたとき、
いきなり後ろから

『次体育じゃん。サッカーおもしろいぜ～』

…誰だよ。体育かよ。
イラっとしつつ振り向いてみた。

息を呑んだ

輝く、オレンジの髪の毛
ありえないぐらい綺麗だった。

背、低い…顔も…可愛らしくて…
女！？

まさかまさか、ここ男子校だろ。
ありえねーだろ…

あれ、あいつ同じクラス？
あんなオレンジ、いなかっただろ…。

そんな風に心の中で葛藤してたら
相手から口を開いた

『アンタ、「晴ちゃん」、だよな？』

俺のこと…しってんのかよ…

『俺、「雨ちゃん（あめちゃん）」なんだ。分かるよな？』

雨…？
雨ちゃんって、俺と対の扱いのアイツ…？
背が低くて、名前はたしか…

「『北田(きただ)　雨(あめ)』…？」

アイツ、こんなオレンジ髪だったか…？
…そうだ、ベランダ…。
太陽の所為か？今までは教室でしか見てない。
体育とか、あんま仲良くなかったからかかわらなくて見てなかったし

…やばいな

おもしろそうだ。

こんな出会いだった。
俺は雨ちゃんを好きになった。

## 仲良くなりたい

あれから2ヶ月。
雨ちゃんとはいつも何かと絡んでいます。
ていうか俺が一方的に絡んでる。

「雨ちゃ～ん！飴ちゃんくれ！」
『持ってないよ！晴ちゃんも自分で買って！』
「え、いやだ！（キリ！」
『ふざけんなよ！』
「…くれないの？」
『うッ…まぁ、1個だけなら…』
「ありがとう雨ちゃん優しい～！」
『どーいたしまして。俺ってお人好しだよなぁ…』
「飴ちゃんおいしーッ！」
『…そして紛らわしいな…。』

前より楽しくなった。
おもしろい毎日になった
どれも雨ちゃんのおかげなんだ
と思うと悔しくてたまらない。
俺ばっかもらって、なんもあげてない。
そーゆーのはたまらなく悔しい。
けどなんも持ってない俺だから
嫌がらせをしてみる。

「雨ちゃんぎゅー！」
『うわッ！ははは晴ちゃん！』
「小さいなぁ！かわいいかわいい（笑）」

『いじめだ！いじめだろこれ！』

「スキスキー＾＾ｗｗｗあははッ！」

『冗談やめろ！変態！は、な、せ！』

「え、本気だったらいいの？（笑）」

『ッ！ふざけんな！晴ちゃん！』

「も～！ツンデレなのだ？雨ちゃんは？」

『どこがツンデレだ！！！！』

生徒Ａ「いちゃつくなーそこのカップル！（ビシ！」

『カップルじゃねぇ！おい待て、てめぇ！』

…まぁ、ただの嫌がらせでしかないんだけど

俺も素直じゃないな。

スキってのも結構本気だったりするし。

もしかしてゲイなんかなーと思う

まぁ、それ抜きで雨ちゃんはいいやつで

大好きだ。

ある日

『晴ちゃん…数学得意だったよね…。』

「う？あぁ、まぁ、普通に？」

『頼むッ！教えてくれませんかッ！』

「え、どした？いいけど。」

『明日…、再テストになった…。』

「そんな悪かったの（笑）ＯＫ。じゃ、俺んち来る？」

『ありがとうぅぅ！晴ちゃん！』

「飴ちゃん、３個ね。」

『まかせろ！』

「よし！」

雨ちゃんが半泣きで頼み込んできたんだ
断るわけないでしょう！

俺の家にて。

「でーそこはーXがぁ」

『…晴ちゃん、わかんない。』

「…雨ちゃん、文系なんだねぇ？国語９０点台だったのに…」

『理数無理！わけが分からない！』

「俺逆だ。」

『いいなぁ。理数できるって…』

「まぁ、そこも雨ちゃんのいいとこだよ。」

『まーじでー？』

「うんwそんなとこも可愛い」

『…またいじめか？』

「いやいやー。本気ですよー！」

『晴ちゃんの半笑いってさ、嘘か本当かわかんないなw』

「えへへーそっかなぁ？」

『本当だったらいいなぁー！』

多分、俺と雨ちゃんのスキは違うんだろうけど

って俺は完璧に恋愛として雨ちゃんを好きなんだろうか？

「そう？うれしい。」

『あ、もう7時じゃん。俺帰るわ。』

「おぉ。送るー」

『いいよ女じゃあるまいしw』

「でも危ないよ。雨ちゃん可愛いから」

『いじめ反対』

「ごめんwwwコンビニ行くついでだから気にすんな」

『あぁ、そう？じゃよろしく』

俺の中で
恋に気づいた

## 仲良くなりたい（後書き）

なかなか無理やりなストーリです。スイマセン＞＜

## 試してみる？（前書き）

キスシーンあり。軽いですが。

**試してみる？**

『あ、そうや！飴！』

「そうだったな！早く受け渡せ！」

『ちょい待って…今ない！』

「じゃ、コンビニ行くか。買え！」

『命令形やめろ！』

「だって雨ちゃんMやろ？感謝しろ！」

『決め付けんな！Mじゃないしさ！』

「あははッ！あ、コンビニ！」

『何味の飴がいい？』

「雨ちゃんがいい」

『冗談やめろwで、何味。』

「冗談じゃないって言ったらどうする？」

『避ける避けるw危険w』

「えー？結構本気なんだけどー？」

『その半笑い信じれないんだけど？』

「信じて？」

『え、まじでwや、だ☆』

「いちご味ね！」

『話そらすなよ！俺が恥ずかしい人みたいじゃん！』

「わ、なに雨ちゃん恥ずかしい！」

『…いちごね。待ってろ』

「命令していいのは俺だけだ！」

『…うぜw』

やっぱ冗談っぽいかな。

そりゃそうだよねw

自分でも男を好きになるなんて思ってなかったし

なんか流れ的に急だし
一目ぼれに近いし。
…いちご味、まだかな

『ほらッ！いちご！』
「ありがと☆おいしーッ！」
『いつも飴食べてるよね。スキ？』
「うん。小さいときからスキ。おいしいし。」
『でも直ぐ噛んじゃってるよね。そーゆー人短気なんだってさ』
「そうなんだ？俺短気かな？」
『そうでも？』
「てゆーか俺、飴ちゃんより雨ちゃんのがスキだよ」
『ホモ発言自重しろよw』
「本気本気。俺のこと信じれないのかよ？」

『そういうわけじゃないけど…まじでー？』

「本気だよ。好きだ。」

『…急に言われても。好きとか考えたときないかな。』

「…雨ちゃん、男も大丈夫な人？」

『！そんなこと分かるわけないだろ！！！』

「じゃーさぁ？試してみようか？」

『試すって…ッ！』

チュッ！

『ッ！何してッ…！晴ちゃん！』

「何って…チュー？」

『「チュー？」じゃないだろ！』

「まぁまぁ、ゴメンって！で、どうだった？」

『…どうってなんだよ？』

「試すって言ったじゃん？大丈夫だった？」

『大丈夫って……ゆーか……／／／』

「顔赤ーッwイヤだった？」

『赤くないッ！イヤ…？じゃ…な…あーもう！！』

「イヤじゃない？やったぁ！じゃ、俺にもチャンスあるな☆」

『…！そゆーんじゃない！』

「あ、あとさ、飴ちゃん、おいしかった？」

『飴？』

「俺、飴味だったでしょー？」

『いちご味だった。』

「ははッwじゃあさ、告白する！」

『は？』

「雨ちゃん、好きだよ。付き合って？」

『は？！なななに！』

「文化祭。」

『文化…？』

「一緒に回ろう？」

『あぁ、そっち…いいよ』

「何ー？そっちってどっち？やーらしー！」

『あぁもう！そういうの止めろよ！』

文化祭

絶対に雨ちゃんを好きにさせよう

俺のこと

## 試してみる？（後書き）

会話分多いです。あと話し方キモイですね。この２人。

## 好きだよ。（前書き）

会話分おおいです。キスシーンあり軽めですが。

**好きだよ。**

生徒A「晴ちゃーん！それ取って！」

「これ？ほいッ！」

生徒A「あざーっす！」

「おー…。」

文化祭の準備中です。
俺のクラスは喫茶店、をするらしい。
店名は「２－３イケメン喫茶」
…イケメンなんていねぇしｗｗｗ
いちおう俺もイケメン店員として駆り出されることになった。

…雨ちゃんはというと。

『イケメン喫茶じゃねーのかよ！！！』

「そうだよ。イケメン喫茶。」

生徒B「うん。そうだ！」

『じゃあなんで俺だけ女装なんだよッ！』

「やっぱ『花』は必要かなって（キリ！」

『絶対晴ちゃんの仕業だろ！やめろよ！』

「あ、ばれた？」

『ばれるわッ！！』

「どーでもいいから。これ着ろ。サイズ合わせっから。」

『スルーするな！って待てよッ！』

「は？」

『何脱がしてんだよ！やめろ！』

「いいじゃん。男同士だし。」

『だけど！晴ちゃんこないだッ…！』

「こないだ？w」

『ッ何でもない！だけど止めろ！』

「あー！じゃあ脱げ！」

『わーった！着たらいいんだろッ！』

「そうだよ。最初からそうしろよ」

「おー…可愛い！可愛い！」

『スースーする…ていうか嬉しくないしさぁ…』

「はいカツラ！」

『うわッ』

本当に女の子みたいだった。
ロングのカツラにメイド服。

「…文化祭、この格好で回るか！」

『え、やだ。』

「これなら何しても怪しくないし。バレないだろ？」

『いやだ！バレたらどうするんだよ！』

「決定！それで回る！」

『勝手に決めるな！』

～文化祭当日～

俺も雨ちゃんも午前の当番

ていうか雨ちゃんモテてるｗｗｗｗ

生徒Ｄ「あのこ可愛いな。どこ高だろ？」

生徒Ｅ「さぁ？でも可愛いー…タイプ」

男に。
でも雨ちゃん俺のだから

午後

「さぁて？行くか！」

『待て！着替える！』

「まずはクレープだ！（グイッ！」

『おわッ！待て！晴ちゃん！』

「は？早く！」

～雨ちゃん視点～

女性Ａ「あの子かっこいいー！あ、でも彼女いるのかぁ」
女性Ｂ「ざんねーん！せっかくの美少年なのに！」
女性Ａ「変態っぽいよーあんたｗ」

…何だ。晴ちゃんモテるんだ

そりゃそうか。かっこいいし。背高いし
優しいし。

そんな人に好かれてんのか。俺。

俺なんかのどこがいいんだろ
男だしさ。

ていうか、俺、男だってバレてないじゃん。
そんなに女顔なんだ。俺
女っぽいから好きになったのかな？

からかってるのかな？

冗談なの？本気なの？

って、俺も好き見たいじゃん…。

…好きだよ

～晴ちゃん視点に戻る～

「あー食べた食べた！ちょっと休もう？」
『バレなくてよかった…』
「あはは！ほらね！バレないじゃん！」
『晴ちゃん！やめろよ！』
「かわいいなぁ…」
『…晴ちゃんってモテるんだね…』
「そうでもないよ。」
『すれ違う女の人、みんな見てたぜ？』
「俺、雨ちゃんいがいに好かれても嬉しくないよ」
『またそういうことを言う！』
「本気だもん。」
『冗談に見える。』
「あ、そうだ、こないだ試したよね？」
『…うん』

「返事、聞きたいな。俺」

『…返事？』

「付き合ってくれんなら、そう言って。だめなら…」

『だめなら？』

「もう二度と話しかけないよ。」

『…俺にそんなこと決められないよ』

「でも俺が決めることじゃない。」

『…き……。』

「え？」

『す…き…。』

「すき？」

『すき…だよ…』

「うそッ…！」

『俺、晴ちゃんのこと好きだよ。でも…』

「…うそ…！」

『泣いてるの…？』

「絶対ないと思ってた…！」

『…泣かないで…ッ！』

「ありがとう。大好き。」

『あ、でもチューにはまだ抵抗があるっていうか！』

「えー！何で？」

『男だし！そりゃぁ…』

「…雨ちゃん」

『え…ッ』

チュッ

『…ッ！抵抗あるって言ったじゃん！』

「だって今、女の子じゃん」

『…あ…ッじゃない！晴ちゃんのバカ！』

「あははッ……好きだよ」

『…うん……』

「大好き、ありがとう」

『…うん…。ありがとう』

「ゴメンね…。」

『何がだよw』

「好きだ。」

『俺もだよ。晴ちゃん。』

優しいキスをした。

いつまでも続くとは思わない

でも今この瞬間

できる限りの間
優しいキスをしていきたい。
それだけなんだ。

## 好きだよ。（後書き）

展開はやいですがッ！許してください！

## どうしようか（前書き）

ハッピー…バレンタイン

**どうしようか**

どうしようか。
バレンタイン。

やっぱりあげたほうがいいのかな。
雨ちゃんに。

でも欲しいんだよね。
でもくれなさそうだよね。

付き合っててもそこは難しいところだよね。

「あ、雨ちゃんッ！」

『なぁにぃ！』

「えと…あと…ちょっと、いい？」

『なにー！？帰りでいいの？』

「あ、う、うん！帰りでいいよ！」

『晴ちゃんなんか変だよ。熱あんの？』

「俺が風邪なんか引くか。大丈夫だ！」

『あっそー。じゃ、ちょっと待っててて。』

いやいやいや、そうじゃないだろ俺！
ていうか買ってないし！
うわうわうわうわバカ俺！

男同士であげるのも変かな…
もらいたいけど

誰だよバレンタインなんて作ったの！！！（泣）

『はーれちゃーん！』

「え、なに。帰ろうか…」

『はい、チョコ！』

「へ？」

『チョコ。あげる』

「うそだー…」

『いらないの？いいの？』

「いるいるいる！」

『ふふん！ホワイトデー、期待してるので！w』

悩むことなかったのかな
あっけない

## どうしようか（後書き）

短いです。バレンタインネタ

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7623q/

ある晴と雨の日

2011年10月8日18時04分発行